

# 保健体育教室

現代高等  
保健体育



新高等  
保健体育



314

No.1 April 2022



■特集

令和5年度用

## 教科書のご案内

■

令和4年度用 体育実技副教材  
主なルール改訂について

■

新学習指導要領の趣旨を踏まえた〈体育〉の学習評価

埼玉大学 石川泰成

■

スポーツの門戸をひらく

——陸上界から届ける豊かなスポーツライフのヒント

合同会社TWOLAPS / 日本陸上競技連盟 横田真人

保健体育教科書

特設サイトでも  
ご紹介しています▼



機関誌・内容解説資料

---

## 特集

---

|                                              |    |
|----------------------------------------------|----|
| 令和5年度用保健体育教科書・指導資料・副教材のご案内 .....             | 1  |
| 現代高等保健体育(701)のご案内 .....                      | 2  |
| 新高等保健体育(702)のご案内 .....                       | 4  |
| 指導資料・副教材のご案内 .....                           | 6  |
| 体育実技副教材のご案内 .....                            | 8  |
| 体育実技副教材の主なルール改訂について .....                    | 9  |
| 新学習指導要領の趣旨を踏まえた〈体育〉の学習評価 .....               | 14 |
| 埼玉大学 石川泰成                                    |    |
| スポーツの門戸をひらく<br>ー陸上界から届ける豊かなスポーツライフのヒント ..... | 19 |
| 合同会社 TWOLAPS / 日本陸上競技連盟 横田真人                 |    |

---

## 連載

---

### 自著を語る

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| 『子どものスポーツ格差 体力二極化の原因を問う』 ..... | 12 |
| 筑波大学 清水紀宏                      |    |

---

|                                                  |    |
|--------------------------------------------------|----|
| 冬に行われた全国高等学校総合体育大会<br>団体(令和3年度)の入賞校(1位～3位) ..... | 24 |
|--------------------------------------------------|----|





## 現代高等保健体育（701）

Check! P.2,6

大修館書店

保健体育教科書・  
指導資料・副教材のご案内

令和  
**5** 年度用  
2023.4 ~



## 新高等保健体育（702）

Check! P.4,6



# 現代高等保健体育 (701)

## 令和 5 年度用教科書のご案内

これまでの当社教科書を生かした、親しみやすい教科書です。

B5 判・218 頁・オールカラー

### 学習の目標

具体的な見通しを持って学ぶことができます。

### 側注

理解を助け、学習を深めることができます。

### 理解を助けるイラスト・図解

イメージがわきやすいよう、イラストや図解を充実させています。

### Point!

保健編 1 単元 現代社会と健康

## 05 がんの治療と回復

### 1 がんの治療と緩和ケア

**1 がんの治療法** がん<sup>①</sup>のおもな治療法には、手術療法、化学療法（抗がん剤など）、放射線療法があります【資料1】。これらの治療法をがんの種類や症状などにあわせて、単独であるいは複数のを組みあわせておこなう標準治療<sup>②</sup>が推奨されています。

患者が、医師から十分な説明を受け、自分の病気・検査結果・治療法などについて理解した上で、どのような方法を用いるかを選択すること<sup>③</sup>が重要です。治療法を選択については、医師によって異なることもあるため、別の医師に意見を求めること<sup>④</sup>もできます。

**2 緩和ケアとがん患者の生活の質** がん治療においては、患者やその家族 1 人ひとりの体や心などのさまざまなつらさをやわらげ、より豊かな人生を送ることができるように支えていく緩和ケア<sup>⑤</sup>が大切です。緩和ケアは、がんと診断されたときから治療と並行しておこなわれます【資料2】。がんが治らないときでも、痛みやつらさをやわらげるための医療が末期までおこなわれます。

がん治療の場合、体の痛みだけではなく、がんになったことへのショック、将来への不安、治療費用の負担などの問題が起こることが多く、さまざまな支援が必要です<sup>⑥</sup>。痛みを取るための医療のほかに、生活や医療費について公的援助の紹介をするなど、それぞれの分野の専門家がチームを組んで支援にあたることで【資料3】、患者とその家族の生活の質<sup>⑦</sup>を高めます。

**資料1 がんの治療の3つの柱**

| 手術療法                                                                                                     | 化学療法                                                                                                                          | 放射線療法                                                                                                            |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| がんを手術によって切り取る方法。体への負担は大きい。最近では内視鏡（先端に小型カメラがついた管状の医療機器）を用いた手術なども普及しつつあり、体に大きな傷をつけずに負担を減らす方法も取られるようになっていく。 | 抗がん剤などの医薬品を服用したり、点滴・注射したりすることによって、がん細胞の増殖をおさえる方法。医薬品が血液とともに全身をめぐることでがん細胞を攻撃するので、全体的な効果があるが、副作用によっては、白血球減少、脱毛、吐き気などの副作用があらわれる。 | 放射線をがん細胞に照射させることによって、がん細胞の増殖を防いで減らしていく方法。臓器を取りのぞかないため、臓器の機能を残すことができるが、副作用が生じることがある。また、がんの痛みをやわらげるためにおこなわれることもある。 |

**資料2 がんの治療と緩和ケア**

がんの経過

がんに対する治療と緩和ケアは、がんに対する治療と並行しておこない、状況に応じて、緩和ケアの内容を変化させる。

がんに対する治療

緩和ケアは、がんに対する治療と並行しておこない、状況に応じて、緩和ケアの内容を変化させる。

がんに対する治療と緩和ケアの人数の割合（推定）

| がんに対する治療 | 緩和ケア  |
|----------|-------|
| 約 35%    | 約 15% |



## 構成・分量

- 保健編 本項目 46 項目  
特設項目 29 項目  
体育編 本項目 16 項目  
特設項目 22 項目  
■本項目は、1 項目につき  
見開き 2 頁を基本としています。

## 特色

- 『現代高等保健体育改訂版 (304)』  
『最新高等保健体育改訂版 (305)』  
の著者を中心とした執筆陣  
■丁寧で親しみやすい紙面  
（「です・ます調」を採用）  
■生徒の興味・関心を引き出す工夫

学習の目標  
●がんのおもな治療法や緩和ケアについて説明できる。  
●がん検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策について説明できる。

特設③ p.18 →

## Point!

## 本項目と特設項目の連動

理解が深まりやすいよう、  
関連する特設項目ページを  
示しています。

## 2 がんとともに生きる社会づくり

1 **がんの社会的対策** わが国では、がん対策基本法<sup>①</sup>にもとづく「がん対策推進基本計画」によって、社会的対策が総合的かつ計画的に進められています。たとえば、がんの予防方法の普及啓発だけではなく、がん検診などを利用した早期発見・早期治療の取り組み、がん診療をおこなうがん診療連携拠点病院の整備、遺伝子情報を活用したがんゲノム医療<sup>②</sup>の推進などです。また、小児・AYA世代<sup>③</sup>の患者に対応した小児がん拠点病院の整備など、患者個人に最適化されたがん医療の実現もめざされています。

2 **がんについての情報の活用** がんに関してはさまざまな情報があふれており、なかには科学的に正しいとはいえないものもありますが、そのなかで私たちは、信頼性の高い情報を活用する必要があります。とくに「がん情報サービス」<sup>④</sup>では、正確かつわかりやすいがんに関する情報の提供がおこなわれています。また、拠点病院にはがん相談支援センター<sup>⑤</sup>が整備され、患者や家族など、誰もが利用することができます。

3 **がん患者への理解と共生** こんにちでは、がんになっても、多くの人が治療をしながら仕事を続けたり、これまでと同じような生活を送ったりできるようになってきています<sup>⑥</sup>。がん患者のことやその人が受けている治療について正しく理解し、患者とその家族、そしてそれらを取り巻く私たちの誰もが暮らしやすいしくみを整えていくことが求められています。

keywords  
手術療法／化学療法／放射線療法／標準治療／緩和ケア／生活の質

① p.18 「がんの克服をめざして～がん治療最前線～」参照。

② がん患者においては、小児とは、一般的に15歳未満を指し、AYA世代は、15歳から39歳くらいの思春期・若年成人 (Adolescent and Young Adult, AYA) を指す。

③ 国立がん研究センターにあるがん対策情報センターが運営するウェブサイト。がんについて、科学的根拠にもとづいた正確な情報を、わかりやすく一般の人と医療関係者に向けて発信している。ウェブサイトのほか、冊子や書籍でも情報提供している。



## Point!

## keywords

特に重要な用語をまとめて  
おり、授業前後での内容確認  
などにも活用できます。

## Point!

## 豊富な事例

身近な視点で捉えることが  
できるよう、様々な事例を  
紹介しています。

## 資料3 専門家のチームによる支援



## 事例

**治療と仕事の両立** システムエンジニアの高橋康一さんは、会社の健康診断で大腸がんが見つかり、手術のために休職しました。復職の際には、産業医や人事部と相談し、残業や出張はせず、軽めの仕事を担当しました。抗がん剤治療の際には、副作用をおさえる医薬品を併用しながら、副作用のピークが週末になるように治療日を調整しました。「仕事をする意義は、治療費を稼ぐためだけではありません。仕事は社会との接点であり、社会貢献ができていると感じることで、生きる意欲にもつながるのです」と高橋さんは述べています。



高橋康一さん

## 話してみよう

がん患者が治療を受けながら働きやすい社会にするために、私たちに何ができるか話しあってみよう。



# 新高等保健体育 (702)

## 令和 5 年度用教科書のご案内

見識を広げるのに役立つ、専門的な内容が豊富な教科書です。

B5 判・230 頁・  
オールカラー

### 学習のねらい

目的意識を持って学習に臨むことができます。

#### Point!

### 関連するページとの連動

学習を深めることができるよう、関連するページを本文中に示しています。

#### Point!

### 学びを深める「調べてみよう」

章扉の QR コードと連動。紙面での学びを発展させるためのヒントを提供しています。

## 4

### 応急手当の意義と救急医療体制

#### 学習のねらい

- 応急手当の意義と、その手順や方法を身につける必要性について理解する。
- 救急医療体制の仕組みと社会的整備の必要性、適切な利用法について理解する。

#### 1 応急手当の意義

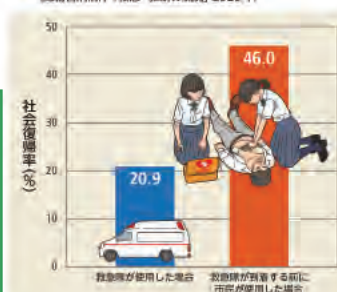
**1. 応急手当とは** 人は、ある日突然、思いもしない急な病気やけがに見舞われる。このような急な病気やけがに見舞われた人（傷病者）を助けるために、救急隊員や医師が到着するまでの間、その場に居合わせた人がとる行動を**応急手当**という。応急手当の中でも、**心肺蘇生**や**AED**の使用で命を助けるためには、一刻も早く開始することが重要である。119番通報や傷病者を安全な場所に移動することも含め、状況に応じて適切な応急手当を行うことで、病人やけが人の悪化を防いだり、苦痛を和らげたりする効果が期待できる。また、その後の救急隊員による処置や医師による治療の効果を高めるのにも役立つ。

**2. 自ら行うことの重要性** 応急手当は、知識として持っているだけでは十分ではない。適切な応急手当の手順と方法を身につけ、必要となった時には**自ら進んで行う心構え**をもつことが大切である。誰もが、いつ、どこで応急手当が必要な場面に遭遇するかわからない。日頃から応急手当の練習をして、いざという場合に自信をもって行えるようにしておく必要がある。いつでも**お互いがお互いを助け合う**ことができれば、生命と身体が守られる安全で安心できる社会となるだけでなく、不慮の事故や災害に対しても強い社会を築くことができる。

① Automated External Defibrillator の略。自動体外式除細動器のこと。詳しくは、p.72参照。

② 心停止の発生する場所は「住宅」が多く、約7割を占めている。住宅で起きた心停止の1か月生存率は、学校や公共施設での発生と比べて低いと報告されている。この背景には、気づかれない間に心停止が起きていること、気づかれたとしてもその場に居合わせた人が胸骨圧迫やAEDを使用する割合が低いことが考えられている。

図1 市民による AED 使用の効果  
(総務省消防庁「救急・救助の状況」2020年)



救急隊が到着する前に市民がAEDを使用すると、1か月後の社会復帰率が2.2倍高くなる。

70

調べてみよう

自分の生活している地域では、119番通報してから平均どのくらいの時間で救急車が到着するのか調べてみよう。

#### Column

#### 学校での心臓突然死ゼロを目指して

学校では、1年間に約50人が心停止となっている。その3分の2は運動中に起きており、発生場所は校庭と体育館が多い(図)。私たち1人ひとりが、胸骨圧迫の方法やAEDの使い方などを身につけ、素早く行動を起こすことができれば、学校での心臓突然死を防ぐことが期待できる。もし、あなたの目の前で友人が倒れたら、心停止に陥った友人の命を救うのは、その場に居合わせたあなたの勇気と行動である。

学校での心停止の発生場所 (Kiyohara R., 2018年)





## 構成・分量

- 保健編 本項目 44 項目  
特設項目 15 項目
- 体育編 本項目 16 項目  
特設項目 21 項目
- 本項目は、1 項目につき  
見開き 2 頁を基本としています。

## 特色

- 専門分野の著者を中心とした  
執筆陣
- シンプルで洗練された紙面  
（「である調」を採用）
- 生徒の興味・関心や主体性をよ  
り高める工夫

### 2 救急医療体制の仕組み

**1. 日本の救急医療体制** 救急医療体制は、急な病気やけがに際して、誰もが適切な医療を受けられるようにするための社会基盤である。すべての国民がもつ健康な生活を営む権利を守るために救急医療体制を整備することは、国の責務の1つである。日本では、救急車による傷病者の搬送は、消防機関が担当している。119番通報すると救急車が出勤し、直ちに救急現場に向かう。現在では、医師が搭乗して直接救急現場に出動するドクターヘリやドクターカーの運用も増加している。救急医療機関は、機能別に初期・第二次・第三次に階層化されている。第三次救急医療機関は、救命救急センターと呼ばれ、急病やけがで生命に危険がある重度の救急患者のすべてを24時間体制で受け入れる。

**2. 救急医療体制の適切な利用** 救急車や救急医療機関は、限りある貴重な医療資源である。国民が皆で大切に使わないと、すぐに足りなくなってしまう。救急搬送される傷病者の数は全国で年間約598万人だが、その半数近くは結果的に入院する必要のない傷病者である。一方、緊急を要する病気やけがなのに、利用をためらっているや治療に間に合わないこともある。そのため、どのような症状やけがであればすぐに救急車を呼び、病院に急いで行くべきかを判断できる知識をもつことが重要である。

応急手当の意義と救急医療体制 ④

- ① 救急隊員の中でも救急救命士は、医師の指示の下、救急現場や救急車内で高度な救急救命処置を行うことができる。
- ② 119番通報から救急車が現場に到着するまでの時間は、全国平均で約9分となっている。
- ③ 全国で54機（2021年現在）のヘリコプターが、年間2万5千件以上出動している。
- ④ 初期救急医療機関は、軽度の救急患者の夜間・休日における診療を担当している。第二次救急医療機関は、必要に応じて救急患者の入院治療を行う。
- ⑤ 「#7119」に電話をすると、「すぐに病院へ行った方がよい」「救急車を呼んだ方がよい」といった助言をもらえる「救急安心センター」などを設置する地域が増えている。

### 側注

理解がより深まるように、内容を補足しています。

図2 119番通報から救急車が現場に到着するまでの仕組み



119番通報すると消防機関の通信指令室につながります。通報を受けた通信指令室は、通報の救急隊の出動場所や傷病者の症状などの情報とともに、出動指令を出す。現場に到着した救急隊員は、傷病者の症状から緊急度や重症度を判断し、原則として傷病者の症状に最も適した近くの医療機関に搬送する。通信指令室または救急隊員が必要と判断した場合には、ドクターヘリやドクターカーの出動を要請する。

### Point!

#### 豊富な図表

読み取る力を高めるために、グラフなどの図表を豊富に掲載しています。

### 考えてみよう

学習した内容を生かして取り組める課題を用意しています。

**考えてみよう** 傷病者を発見した時に積極的な救助をためらう理由を考えてみよう。



# 現代高等保健体育（701）／ 新高等保健体育（702） 指導資料・副教材のご案内

授業の  
進行・展開を  
サポート！

## ■ 指導ノート



B5判・2色刷 【保健編】①320頁／304頁 5,500円②112頁／112頁 3,850円③176頁／208頁 4,400円④192頁／208頁 4,400円【体育編】304頁／304頁 5,500円

- ・教科書内容の注釈，説明と板書例，コラム，参考資料，指導案など授業展開にとって必要な要素を凝縮した，教師用指導書の「授業計画・展開編」です。
- ・保健編の各単元・章の4冊に体育編を加えた5分冊です。

授業の  
進行・展開を  
サポート！

## ■ Teacher's Edition (朱注編)



B5判・4色刷（オールカラー）  
218頁／230頁 7,150円

- ・教科書の余白や行間に補足説明を赤字で示した，教科書の「朱注編」です。
- ・教科書を説明するのに十分な情報を提供します。

授業の  
進行・展開を  
サポート！

## ■ デジタル教科書



指導者用アプリ版 66,000円  
クラウド版 68,200円

- ・書き込みや内容の共有ができ，一体感のある授業ができます。
- ・PC，タブレットでご利用いただけます。

体験版はコチラ！



[https://www.taishukan.co.jp/kyokasho/high/digital\\_txt/hotai/](https://www.taishukan.co.jp/kyokasho/high/digital_txt/hotai/)



# 先生方をサポートする指導資料・副教材！

- 指導ノートが丁寧な解説と詳細なデータで指導内容をサポート
- Teacher's Edition が授業進行をしっかりサポート
- デジタル教科書、指導用データ集、授業用パワーポイントスライド集が授業展開をサポート
- 保健体育ノート、図説が生徒の学習をサポート
- 評価問題自動編集ソフトが試験問題づくりをサポート

授業の  
進行・展開を  
サポート！

生徒の  
学習を  
サポート！

試験問題  
づくりを  
サポート！



## ■ 保健体育ノート

生徒の  
学習を  
サポート！

B5判・2色刷 160頁 924円

- ・穴埋め問題や記述式の説明問題、クロスワードパズル、参考資料など、教科書とリンクした学習教材が満載です。
- ・書き込みが可能なノート兼用の学習帳なので、授業後や期末テスト前の復習にも最適です。
- ・世界の健康やスポーツに関するトピックスを紹介するコラムを閲覧できるQRコードも用意しています。



## ■ 図説

生徒の  
学習を  
サポート！

B5判・4色刷（オールカラー）160頁 924円

- ・教科書内容に関連する図表やイラスト、写真など、学習の発展を促す資料が満載です。
- ・保健や健康に関する資料など、自習・課題学習の課題としてもご利用いただけます。
- ・教科書内容に対応した「アクティブ・ラーニング」課題を新設し、主体的・対話的で深い学びにも取り組みやすくなりました。

## ■ 指導用データ集

授業の  
進行・展開を  
サポート！

DVD-ROM 各1枚  
6,600円／8,800円

図表、シラバス、評価問題例集などのデータが入っています。



## ■ 授業用パワーポイントスライド集

授業の  
進行・展開を  
サポート！

CD-ROM 各1枚 6,600円／8,250円

教科書に準拠したスライド集。保健編・体育編のすべての項目に対応しています（特設項目は除く）。

## ■ 評価問題自動編集ソフト

試験問題  
づくりを  
サポート！

CD-ROM 各1枚 9,900円

教科書の保健編・体育編、およびスポーツの問題が編集できます。

\* 本誌 p.6-7 の価格はいずれも定価（＝10%税込）です。 \* 対象商品については、PCにディスクドライブがない場合でも提供可能です。

# 体育実技副教材のご案内



## ステップアップ高校スポーツ

B5判 オールカラー 定価1,012円(本体920円+税10%)

- レベルに応じて学習が進められるステップアップ方式を採用。種目の中核となる技術や戦術が身につく練習方法を多数紹介しています。
- 練習方法やミニゲームがたくさん紹介されていますので、**選択制の授業**でも役に立つ内容です。
- 紙面が**大判**(B5判)でワイド。見本の動きが**写真中心**で見やすいのが特徴です。また、QRコードから基本の動きの動画にアクセス可能です。
- 活動を書き残し、授業を振り返れる個人学習用ノート付き。



## アクティブスポーツ(総合版・女子版)

A5判 オールカラー 定価902円(本体820円+税10%)

- 技術・戦術、練習方法やルールを立体的なイラストを使って**ビジュアル**に解説しています。
- 体育理論でも重視されている「**戦術学習**」を重点的に扱っていますので、より詳しく指導されたい先生におすすめです。
- スポーツを「する」「みる」「調べる」に対応した内容がコンパクトに1冊にまとめられ、**卒業後**も役に立つ内容です。



## イラストでみる最新スポーツルール

A5判 オールカラー 定価902円(本体820円+税10%)

- 各種目の**最新ルール**についてイラストを用いて詳しく解説しています。
- 弊社の体育実技副教材の中で、**ルールの充実度**は断トツのナンバー1です。
- 「スポーツを考えよう」「みんなのスポーツ栄養」「みんなの体力トレーニング」という項目の内容は、**体育理論**の参考資料としてもお使いいただけます。



# 体育実技副教材の主なルール改訂について

○すでにご承知の先生方も多いことと存じますが、ルールや名称の変更等にもない、2022年度版の教材では主に次の点を改訂いたしました。

（ただし、アクティブスポーツ2022総合版／女子版、イラストでみる最新スポーツルール2022、ステップアップ高校スポーツ2022のいずれかにおいて掲載できました範囲に限られます。）

## ●陸上競技

### ■トラック競技の「不正スタート」による失格

以下の部分を削除しました。

「ただし、国内の中学・高校生が出場する競技会などでは、旧規則（2回目以降に不正スタートした競技者が失格）を適用することもある。」

### ■リレーの「バトンパス」

以下のとおり修正しました。

旧：もしバトンを落とした場合、その競技者がバトンを拾って継続してもよい。

新：もしバトンを落とした場合、バトンパスが完了していない場合、前走者が拾わなくてはならない。バトンパスの完了後にバトンを落とした場合は後走者が拾わなくてはならない。

### ■「走り高跳び・棒高跳び」

以下のとおり修正しました。

・「跳躍数」→「試技数」

・旧：同記録の高さで順位が決まらない場合は、全試技において無効試技（失敗）のもっとも少ない者を上位とする。

・新：同記録の高さで順位が決まらない場合は、同記録までの無効試技数が少なかった者を上位とする。

・「無効試技数」の数え方

旧：無効試技数は同記録となった高さの前の高さまでを数える。

新：無効試技数は同記録となった高さまでを数える。

## ●バスケットボール

### ■「ファウルの種類とその罰則」の「アンスポーツマンライク・ファウル」と「ディスクォリファイング・ファウル」

教材掲載の表 右段の記述について、以下のとおり追記しました。

旧：（省略）ショットの状況に応じて2個または3個のフリースローが与えられる。

新：（省略）ショットが入らなければショットの状況に応じて2個または3個のフリースローが与えられる。

## ●卓球

### ■「競技施設と用具」の「ラバー」

以下のとおり修正しました。

旧：両面に貼る場合は赤と黒の反対色とする。裏面にラバーを貼らない場合は、表面のラバーの反対色をぬる。

新：両面に貼る場合は黒と赤・桃・紫・青・緑の5色のいずれかとする。

## ●ソフトボール

### ■「競技施設」

以下のとおり修正・統一しました。

・「ピッチングサークル」

→「ピッチャーズサークル」

・「スリーフィットライン」

→「スリーフィットレーン」



# デジタル版

超教科書  
Cho-Textbook

## ステップアップ 高校スポーツ

1人1台の端末を活用した体育実技のための  
デジタル版体育実技副読本（学習者用）が  
新登場！



[https://www.taishukan.co.jp/kyokasho/high/digital\\_txt/trial3/viewer.html?contentId=urn%3Auuid%3A7c53b3ce-5022-40a2-a4ab-37e613c621ed](https://www.taishukan.co.jp/kyokasho/high/digital_txt/trial3/viewer.html?contentId=urn%3Auuid%3A7c53b3ce-5022-40a2-a4ab-37e613c621ed)

体験版はコチラ！



いつでも、何度でも、  
確かめられる！



お手本動画が視聴できる！

質の高いお手本の映像を視聴することで  
よい動きをイメージすることができます。



アプリ版

ISBN978-4-469-76221-1  
価格 980 円  
(本体 891 円+税 10%)

各端末に商品データをインストールして利用する形態です。一度インストールすれば、オフラインでいつでもどこでも利用可能です。

クラウド版

ISBN978-4-469-76222-8  
価格 1,200 円  
(本体 1,091 円+税 10%)

クラウド上の超教科書サーバに各端末のブラウザを介してアクセスし、ログインして利用する形態です。インターネット環境が必要です。

※アプリ版・クラウド版ともに価格/1人につき・3年ライセンス（ルールは毎年更新）



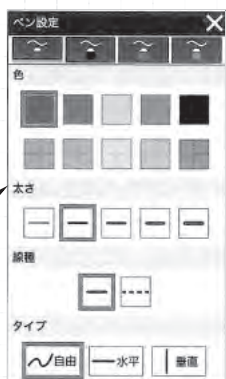


## 書き込んで主体的に学べる！

大事なポイントに印をつけたり、できるようになったら消したりできるので、主体的な学びにつながります。

ツールを選んで、フリーハンドでメモを画面に書き込める！

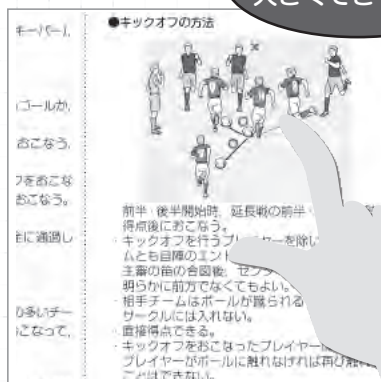
写真や図形、文字の入力もできる！



## 拡大して表示できる！

紙面を拡大して、大事なところをしっかりと確認することができます。

見たい図や画像を大きくできる！



練習成果を確認できる！



## ビフォーアフターを確認できる！

「マイリンク」の機能を使えば、単元の前半に撮影した動画と後半に撮影した動画を紙面上に保存して練習の成果を確認することができます。

動画を撮影して…



動画を撮って動作を見比べるツールアプリ  
「見比べレッスン web 版」のトライアルサービスも！

トライアル3か月間。  
詳細はお問い合わせください。

\*このパンフレットに記載されている事項や内容、画面等は、今後予告なく変更される場合があります。

お問い合わせは ▶ 大修館出版販売 東京支店 デジタル担当 TEL 03-3934-5110



## 子どものスポーツ格差 体力二極化の原因を問う

◆清水紀宏 著  
◆四六判  
◆定価1,760円  
(本体1,600円+税10%)



▲書籍情報はこちら



筑波大学体育系

清水紀宏

本書は、「格差・貧困」そして「不平等」という現代日本社会が抱える負の側面に正面から対峙し、この視角から子どもの体力とスポーツ問題（例えば、体力二極化問題）を1つの「格差問題」すなわち「社会問題」として考察しようとするものである。

### ■スポーツとカネ

昭和の東京五輪から令和の東京五輪までの約60年間の中で、わが国のスポーツにおける最大の変化が、スポーツの「有料化」と「高額化」である。特にその変化は、21世紀以降に急展開したスポーツの国策化（成長戦略への貢献）によって加速し、スポーツと経済価値は切っても切れない関係となってしまった。このことが、特定の人々の「権利としてのスポーツ」の実現を益々遠ざけている。なぜならこの国は、今や、格差・貧困大国だからである。そして、何より問題視すべきことは、そうした「スポーツとカネ」の結びつきが強まることで、子どもの体力と運動習慣に深刻な影響が出ていることである。

### ■体力二極化の原因は？

かつて筆者は、『体育科教育』2018年1月号（大修館書店）において、子どもスポーツの受益者負担化・商品化（習い事化）により私費負担が増大し家計依存が一層強まることで、体力・スポーツの格差が顕在化する危険性を指摘した。しかし、この段階ではあくまで学力格差や健康格差など関連分野の研究成果を参考にした論理的推論の域を出なかった。その後、筆者らの研究グループはわが国の某小都市における子ども（幼児～中学生）と保護者を対象とした大規模な悉皆調査（調査対象のすべてを調査する）を実施するとともに体力・運動能力テストの実測データを取得し、体力・スポーツ格差の実証分析を行った。そこで、このデータ分析で明らかになったエビデンスの一部を報告しておきたい。

近年の子どもたちをめぐる懸念すべき体力問題は、体力・運動能力が高い子と低い子の格差が広がる（体力二極化）とともに、体力・運動能力が低い子どもが増加していること（体力貧困化）である。では、体力の低い子どもたちはどのような境遇（環境）に置かれているのか？この素朴な問いに対応したシンプルな分析結果として、新体力テストの総合評価でA.B段階の者を高体力群、D.E段階の者を低体力群とし、保護者調査の回答結果を両群で比較分析したところ、低体力群はおおよそ次のような家庭環境で育つ子どもたちであることがわかった。

- (1) 世帯収入・学校外教育費・学校外スポーツ費のいずれも少なく、また両親ともに低学歴であり、小学校期の学校外スポーツクラブへの加入率が著しく低い。また、親の社会関係資本（学校行事への参加・子どもについて相談できる知人の数）が乏しい。
- (2) 子どもへの教育アスピレーション（学歴期待）が低く、毎日朝ご飯を食べさせていない家庭が多く、学校の出来事について子どもと会話することが少ない。
- (3) 子どものスポーツへの期待値が低く（例えば、子どものスポーツ活動には関心がない、スポーツより勉強など他のことをしてほしい）、スポーツサービスの選択基準として「費用が安いこと」「親の負担が少ないこと」を挙げる者が多い。また、子どもとスポーツをしたり見たり話したりすることが少なく、親自身もスポーツが苦手でスポーツをすることも見ることも好きではなく、現在、スポーツをしていない者が多い。

以上を総括すると、体力の低い子は、家庭の経済資本・文化資本・教育資本・社会関係資本そしてスポーツ資本など、総じて資源に恵まれない厳しい家



庭環境の下に置かれているケースが多いということになる。

こうした特徴から、運動習慣に乏しくそのために体力・運動能力が低い子どもたちは、様々なタイプの家庭にバラバラに分散しているのではなく、社会経済的条件とこれに起因する諸資源に恵まれない家庭にある程度集中していると考えられる。

体力や運動能力という身体資本は、親からの遺伝によって先天的に授けられるよりも、子どもが生まれ育つ生活環境との相互作用を通じて後天的に獲得される部分の方が大きいとされる。したがって、「体力の格差」という現象があるということは、わが国の子どもたちが著しく「不平等」なスポーツ環境の下に置かれているということを意味する。体力の二極化問題に適切に対応するためには、この現象を「二極化」ではなく「格差」とであるという認識をもって対策を講じることが肝要である。

### ■体力問題は社会の問題

「体力二極化」が家庭の諸々の格差に原因があり、「体力貧困化」は貧困家庭の増大に起因するのだとしたら、子どもの体力問題は、家庭と学校教育の努力だけでは根本的な解決には至らない。なぜなら、家庭の諸格差は社会の仕組みや制度に原因があるし、そうした諸格差がスポーツへのアクセスや子どもの運動習慣を通じて体力・運動能力の格差を生んでしまうという、子どもスポーツの構造や制度に起因する社会問題であるからだ。

そのうえでこの問題の対策を考える際、何より大切なのは、家庭の社会経済的条件とスポーツに参加する機会との関係性を断つこと、つまり、どんな家庭で育つ子どもであっても、平等にスポーツに参加することができるユニバーサルアクセスを保障することであろう。そのためには、「子どもスポーツの無償化」が真剣に検討されねばならない。しかし、スポーツの成長産業化が国の基本政策の1つとして標榜され、学校運動部活動の地域移行もその一方策とし取り込まれようとするなど、事態は真逆の方向に進もうとしている。

### ■学校には何ができるか

わが国のスポーツが商品化・市場化されていけばいくほど、セーフティネット（最後の砦）としての

学校の役割は重大である。では一体、学校体育では体力問題にどのような手が打てるだろうか。

一言でいえば、すべての学校に体育版エフェクティブ・スクール（効果のある学校）<sup>注1)</sup>を目指してほしい。それは、これまでのように、体力テストの学校平均値を都道府県・全国平均と比較して一喜一憂する学校ではなく、各発達段階にある子どもたちにとってあたり前（最低限）の体力水準をすべての子どもに保障することに体力づくりの目標を定めた学校である。そして、この時重要になるのが「平等（Equality）」から「公正（Equity）」<sup>注2)</sup>へという学校教育の基調の転換である。

昭和時代の学校教育は、戦後経済成長の原動力であったとともに、一億総中流社会を前提に形成されてきた。みんな中流だから、皆に平等に教育すればよかった。しかし今、子どもが育つ家庭は多様化した。格差も大きい。皆平等主義の教育では、家庭環境に恵まれない子どもたちは無残にも取り残されかねない。格差・貧困社会を前提に再生すべき令和の教育／体育は、子どもたちの境遇・状況に応じたハイリスク・アプローチ<sup>注3)</sup>も取り入れ、運動・スポーツどころではない家庭の子どもたちには手厚いサポートを実施すべき時ではなかろうか。

注1) 教育的不利な環境（例えば貧困家庭）にある子どもたちの基礎学力を引き上げることに成功している学校。

注2) 平等と公正の違いについては、以下のサイトがわかりやすい（2022年1月26日参照）。

<http://www.sumida.ed.jp/sanazumasho/life/R3gakkoudayori.files/R3gakkoudayori06kai.pdf>

注3) リスクを抱えた特定の人々に、重点的にリスクを下げる働きかけをすること。子ども食堂はその一例。

\*本稿は、体育科教育2022年1月号「『社会問題』としての子どものスポーツ格差」から一部抜粋・編集したものである。

# 新学習指導要領の 趣旨を踏まえた 〈体育〉の学習評価

埼玉大学教育学部 准教授

石川 泰成

## 1. はじめに

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月21日 中央教育審議会）p.60では、「『子供たちにどういった力が身に付いたか』という学習の成果を的確に捉え、教員が指導の改善を図るとともに、子供たち自身が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするためには、この学習評価の在り方が極めて重要」であるとし、学習評価の意義を強調している。

また、平成30年告示の「高等学校学習指導要領」（以下、「学習指導要領」）を踏まえ、令和3年8月、国立教育政策研究所から『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』（以下、「参考資料」）が示された。ここでは、「生徒一人一人の学習の成立を促すための評価」という視点が一層重視され、教師が授業における生徒の学びを振り返り、学習と指導の改善に生かしていくという、「指導と評価の一体化」の実現に向けた事例等が示されている。

本稿では、前述の参考資料を踏まえ、学習評価の基本的な考え方、科目体育における学習評価の進め方、評価の実際と活用について解説したい。

## 2. 学習評価の基本的な考え方

### ① 学習指導要領の改訂と学習評価

学習指導要領では、各教科等の目標及び内容が三

つの資質・能力（「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」）に再整理され、「各教科でどのような資質・能力の育成を目指すのか」が明確に示された。これは、学習する子供の視点に立ち、教育課程全体や各教科等の学びを通じて「何ができるようになるのか」が重視されたものである。このことから、今回の改訂において学習評価の重要性が一層強調されたものと捉えることができる。

ただし、学習評価は、評価方法等が単独で存在するものではなく、目標の実現状況や内容の習得状況の評価する営みであることはいうまでもない。では、その目標や内容はどこから導き出されるのか。それについては、「各教科等の評価については、『観点別学習状況の評価』と『評定』が学習指導要領に定める目標に準拠した評価として実施するものとされている」<sup>1)</sup> ことを改めて確認しておきたい。したがって、法的根拠をもつ学習指導要領の理解を深めることが、学習評価の妥当性や信頼性を高める上で必須といえるだろう。特に肝に銘じておきたいのは、三つの資質・能力ごとに「何を学ぶのか」を具体化・明確化することこそが評価可能な授業づくりの基盤となること、学習する対象（「何を学ぶか」）の喪失は「活動あって学びなし」の状況を生み出す可能性があることである。

### ② 指導と評価の一体化

参考資料 p.6では、学習評価を真に意味のあるものとし、「指導と評価の一体化」を実現するため、学習評価の改善の基本的な方向性を示している。筆者の理解でまとめると、表1のとおりである。

特に、学習の主体者である生徒自身が自らの学習を振り返り、次の学習に向かうことができるようにすることを目指していることに注目したい。つまり、学び続ける生徒の育成のためには、生徒による振り返りと教師による適切な評価のフィードバックの両面が重要となるだろう。それには、適切な評価方法や評価機会の検討も不可欠となる。

平成31年3月には、「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」（文部科学

表1 学習評価の改善の基本的な方向性

- 生徒の学習改善につながるものとする
- 教師の指導改善につながるものとする
- 必要性・妥当性がないものは見直していくこと



省)が発出された。ここでは、学習状況を複数の観点から分析的に捉えることを目的とした「観点別学習状況の評価」の記載欄を設けた新たな様式が示され、評価にかかわる説明の充実が図られている。高等学校においても、以前より「観点別学習状況の評価」が行われてきたが、地域や学校により取り組みに差があったり、生徒の学習の記録として教員が作成する指導要録に「観点別学習状況の評価」を記録している割合が13.3%にとどまっていたりする状況等を踏まえると、今後は「観点別学習状況の評価」を一層推進することと、その質を高めることが大きな課題となるだろう。また、生徒が自らの学習を振り返り、次の学習に向かうことができる力を育成する上でも、「観点別学習状況の評価」の工夫と活用が、今後の大きな鍵を握るといえよう。

### 3. 科目体育における学習評価の進め方

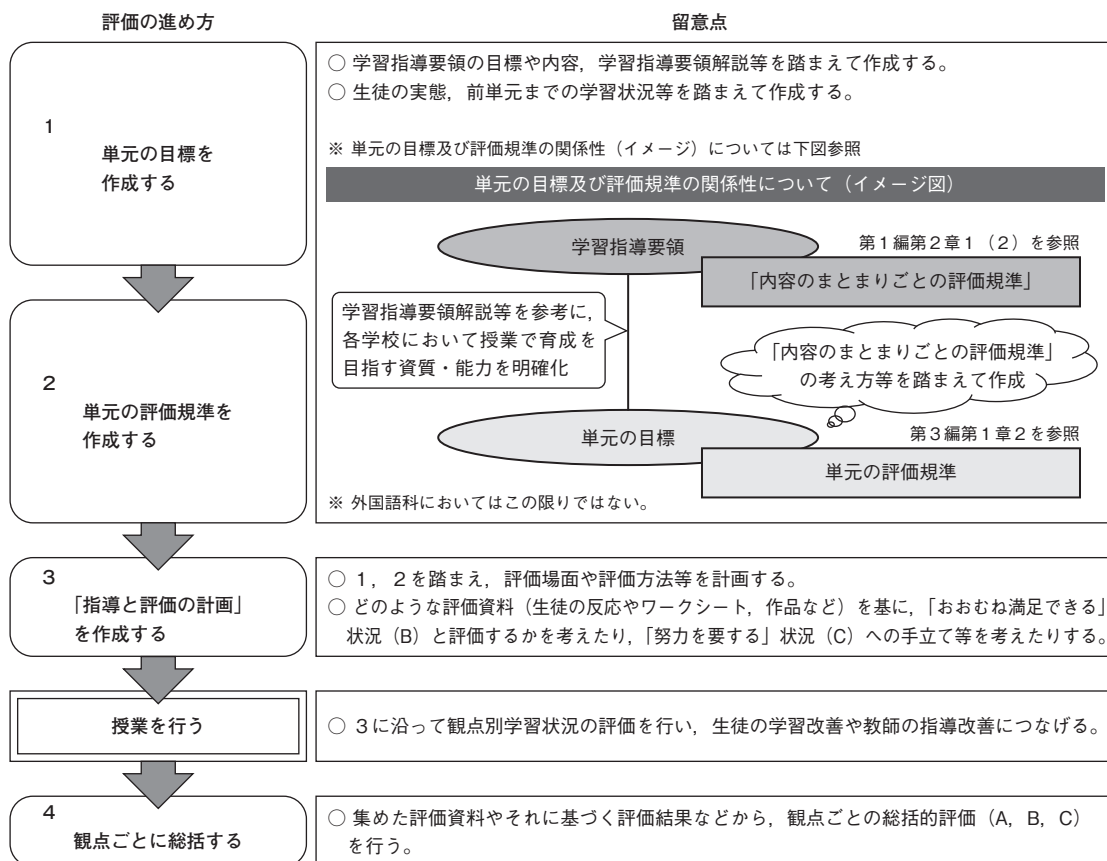
参考資料 p.43「1 本編事例における学習評価の進め方について」に沿って解説を試みる(図1)。

#### ①「単元の目標」を作成する

各学校で指導計画を作成するにあたっては、生徒や各学校の実態に応じて実際の授業を構想し、高等学校卒業年次までを見通した上で目標や内容を的確に定めることが求められる。「単元の目標」は、図1の留意点にもあるように、学習指導要領の目標や内容、「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育編 体育編」(以下、「解説」)等を踏まえるとともに、生徒の学習状況や学校の実態等を確認した上で作成する。具体的には、学習指導要領の「第2章 保健体育科の目標及び内容」を用い、三つの資質・能力ごとに文末表現を「～(する)ことができるようにする。」と変換して単元の目標を作成する。

また、当該単元において指導しない内容については( )を付けて示すという工夫も有効である(参考資料 p.70図2内「単元の目標」を参照)。各学校において、卒業年次までの教育課程の編成を行うわけであるが、解説では、入学年次(1年次)とそ

図1 単元の評価の進め方と留意点



(「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」より)

の次の年次以降（2年次以降）に分けてねらいや内容を示している。特に、その次の年次以降のねらいや内容がまとめて示されているため、年次（2年次、3年次など）ごとに指導事項を整理し、系統化して内容を分散させるなどのカリキュラム・マネジメントが必要となる。こうした理由から、「単元の目標」については、当該年次において指導し評価する内容が明確になるよう示し方を工夫している。

②「単元の評価規準」を作成する

単元設計の際には、目標や内容とともに、「単元の評価規準」を作成し、「何ができるようになるのか」というゴールの姿を見定めて授業実践に入ることが肝要である。

参考資料 p.47では、解説の〈例示〉をもとに「単元」の評価規準の作成方法を示している（表2）。解説では、入学年次とその次の年次以降の学習のねらいや具体的な指導事項が示されている。また、今回の改訂において、指導と評価の一体化を一層推進する観点から、三つの資質・能力すべての指導内容に〈例示〉が示された。参考資料では、これらの例示を活用した事例が紹介してあるので、作成にあたっては、ぜひ解説と併せて確認していただきたい。

また、「単元の評価規準」を作成するには、事前に以下の検討を済ませておく必要がある。それは「内容のまとまり（領域）」ごとに指導事項を重点化して配置する作業である。具体的には各「内容のまとまり」を、卒業年次までの指導内容を俯瞰しつつ、

当該年次や各単元での指導事項を決定して配置する。その際、各単元で育成する資質・能力を精選したり、重点化したりして（すべての年次の）年間指導計画を作成する。「内容のまとまり」の資質・能力の三つの柱で示された指導事項が各年次間、あるいは同じ年次の単元間でバランスよく配置された計画の作成が、当該単元の評価規準を設定するための前提条件になる。なお、これまで、「単元の評価規準」をもとに、さらに「学習活動に即した評価規準」を作成する事例が示されてきたが、参考資料では、「学習活動に即した評価規準」は別途提示せず、「単元の評価規準」のみ示す事例に変更されている。

③「指導と評価の計画」を作成する

単元の目標、指導内容、評価規準を明確にするとともに、三つの資質・能力ごとに指導内容をバランスよく配置し、それぞれの関連を図った評価場面と評価方法等を位置付けた「指導と評価の計画」を作成する。単元を設計する段階から、指導と評価を一体的に捉えることを念頭に、生徒が現状を確認しながら学習を進めることができる単元の道筋をデザインしたい。また、指導内容に即して適切な評価方法を検討することや、「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への指導を速やかに図ることができるよう、評価場面を適切に設定することなどに留意する必要がある。参考資料 p.70では、単元の目標、学習の流れ、評価機会、単元の評価規準を一体化して示した「入学年次における指導と評価の計画例」が示してあるので参考にしていきたい。

④ 観点ごとに総括する

「観点別学習状況の評価」結果を評定へ総括するにあたり、参考資料では留意点を示している。その一部を表3にまとめて示す。

また、参考資料 p.66では、「観点別学習状況の評価」の総括及び「評定」への総括の例を示している（p.17- 図2）。「観点別学習状況の評価」は、観

表2 単元の評価規準を作成する方法

| 【知識・技能】                                                                                                                                                                                       |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 例示の文末を「～について、言ったり書き出したりしている」（a）、「～について、学習した具体例を挙げている」（b）に変換するなどして作成する。<br>（a）一般的に認知された科学的な知識等を内容とするもので、各学校や教師の指導によって大きな相違がないものに用いている。<br>（b）学校や生徒の実態に合わせて、指導する教師により取り扱われる内容に相違が予想されるものに用いている。 |
| 【思考・判断・表現】                                                                                                                                                                                    |
| 例示の文末を「～している」に変換するなどして作成する。                                                                                                                                                                   |
| 【主体的に学習に取り組む態度】                                                                                                                                                                               |
| 例示の文末を「～しようとしている」（a）、「～を確保している」（b）に変換するなどして作成する。<br>（a）意思や意欲を育てるという情意面の例示に用いている。<br>（b）「健康・安全」の観点については意欲を持つことにとどまらず、実践することが求められているものであることから文末の表記を変更している。                                      |

注）参考資料 p.47の表から一部抜粋

表3 総括を行う際の留意点

- 「観点別学習状況の評価」の総括及び「評定」への総括を行うにあたっては、指導事項に対応した評価規準数を考慮するのか、「観点別学習状況の評価」を「評定」へ総括する際に観点ごとの比率を設定するのか等も含め、「観点別学習状況の評価」の総括及び「評定」への総括についての考え方や方法等を、各学校において十分検討しておくこと。
- シラバスやオリエンテーション等の機会を通して、事前に生徒及び保護者等に対して十分な説明をしておくこと。 他



点ごとにA、B、Cの3段階とすることが適当とされているが、科目体育の事例においては「5段階（例：A<sup>o</sup>、A、B、C、C<sup>△</sup>）で評価し、『評定』への総括に備える例も考えられる」<sup>2)</sup>としている（A<sup>o</sup>を5、Aを4、Bを3、Cを2、C<sup>△</sup>を1と設定）。ただし、指導要録の記載にあたっては、3観点での記載が求められているので注意が必要である。また、各学期での総括の際に、各学校において検討しておくべき視点（学期をまたいだ領域の扱い、評価規準の数など）の例が吹き出しで示してあるので確認していただきたい。「評定」への総括については、その方法によって評定が異なる場合が考えられることなどから、各学校では、**学習指導要領**の趣旨や生徒の実態等を踏まえ、総括の方法について事前に十分に検討し教師間の共通理解に基づいた実践とすることが必要である。

4. 科目体育における学習評価の実践と活用

① 授業（学習）改善のツールとして

主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善が求められている。具体的には、生徒が学習の見通しや振り返りから、自身の学びや変容を自覚できる場面や自分の考えなどを広げたり深めたりする場面を設定したり、生徒が考える場面と教師が教える場面を

どのように組み立てるか等の工夫をしたりすることが求められることになる。つまり、今後、教師の「指導と評価を一体的に捉えて単元（指導と評価の計画）を設計する力」が一層問われることとなろう。その際、学習評価は、教師の授業改善や生徒の学習改善のツールとして重要な役割を担うことになる。

② 指導の個別化に向けて

「観点別学習状況の評価」は、生徒一人一人の学習状況を明確にし、生徒が自らの学習改善につなげると同時に、教師の指導の成果や課題を明らかにするものである。そのため、単元の最後にまとめて行うのではなく、指導場面に対応した評価の機会を設定することが重要となる。特に、「努力を要する」状況（C）の生徒に対して一早く手立てを講じることや、「十分満足できる」状況（A）の生徒に対しても個別の課題を与えるなどの指導に生かすことが大切である。また、「知識」と「技能」の学習状況を別々に生徒へフィードバックし、生徒の学習改善に生かすなどの学習評価の活用が期待されている。

③ 目標の実現状況の判断に向けて

「観点別学習状況の評価」を的確に行うために、判断するよりどころとして、単元の評価規準を作成することとなる。ただし、実際の授業においては、実現状況を判断するための材料や生徒の学びの姿を

図2 A高校における年間指導計画の入学年次1学期の総括時の検討例

| 図2 A 高校における年間指導計画の入学年次1学期の総括時の検討例 |   |                |           |                |           |                            |           |                           |                           |             |
|-----------------------------------|---|----------------|-----------|----------------|-----------|----------------------------|-----------|---------------------------|---------------------------|-------------|
| 単元名                               |   | 体づくり運動         |           | 体育理論           |           | 全領域選択Ⅰ<br>(器械運動)           |           | 総括 (平均点)<br>< 比率 % >      |                           | 評定<br>(平均値) |
| 時間数                               |   | 5              |           | 3              |           | 18                         |           |                           |                           |             |
| 項目                                |   | 評価             | 評価<br>規準数 | 評価             | 評価<br>規準数 | 評価                         | 評価<br>規準数 |                           |                           |             |
| 生徒<br>X                           | 知 | B B<br>(3) (3) | 2         | A A<br>(4) (4) | 2         | B B A<br>(3) (3) (4)       | 3         | A or B<br>(3.43)          | A or B<br>(3.80)<br><xx%> | 4 or 3      |
|                                   | 技 |                |           |                |           | A ° A A °<br>(5) (4) (5)   | 3         | A or B<br>(4.67)          |                           |             |
|                                   | 思 | A A<br>(4) (4) | 2         | A<br>(4)       | 1         | A B B B<br>(4) (3) (3) (3) | 4         | A or B<br>(3.57)<br><xx%> |                           |             |
|                                   | 態 | B<br>(3)       | 1         |                | 0         | A A A °<br>(4) (4) (5)     | 3         | A or B<br>(4.00)<br><xx%> |                           |             |

知識・技能の総括の考え方

学期をまたいだ領域の扱い

観点別学習状況の評価の3段階評価 or 5段階評価

評価規準の数

3観点の総括の比率

評定への総括の考え方

※ 体づくり運動は1学期と2学期に分割して、体育理論は1学期と3学期に分割して実施しているが、この例ではそれぞれの学期で評価し総括している。  
(『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料)より)

表4 実現状況を判断する目安と生徒の回答例

| 実現状況          | 判断の目安                                                                                | 生徒の回答例                                                                                                                                                                                                                           |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 十分満足<br>(A)   | 学習した主なルールを基に、自己や仲間にあった簡易な試合でのルール、審判及び運営の仕方について、簡易ルールが必要な意義や意図、理由やその効果も含め、具体的に記述している。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の試合数や、自分たちの体力などを考えて、試合時間は、正式の半分で2分、試合方法は1本勝負、広さは正式の広さの半分で行う。</li> <li>・効率的で安全に運営するため、試合がない班で、審判・時計係・記録係を決めておく。</li> <li>・簡単なルールにしたり、試合時間を変えるのは、メンバー全員が楽しく試合できるようにする為に必要だから。</li> </ul> |
| おおむね満足<br>(B) | 学習した主なルールを基に、簡易な試合でのルール、審判及び運営の仕方について記述している。                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・試合時間、試合方法、試合場の広さ、試合形式（団体・個人）などを決める。</li> <li>・審判、時計係、記録係を決めておく。</li> <li>・試合をやるのに最低限必要な内容だから。</li> </ul>                                                                                 |
| 努力を要する<br>(C) | 学習した主なルールを基に、簡易な試合でのルール、審判及び運営の仕方について記述されていない。                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールを簡単にする。</li> <li>・できる人が係を行う。</li> </ul>                                                                                                                                               |

(『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料より)

想定すること等が必要となる。そのヒントとして参考資料 p.72では、単元の評価規準とともに、実現状況（A、B、Cの3段階）に対応した「判断の目安」や「生徒の回答例」などを盛り込んだ段階表が紹介されている（表4）。これらを参考に、各学校で独自の段階表等を作成し、活用することが期待される。こうした資料を作成する過程で、教師間の評価に対する考え方や評価方法等が共有されたり、評価の統一性や安定性が確保されたりすることが、学習評価の信頼性、妥当性を高めることにつながるの

#### ④「主体的に学習に取り組む態度」の評価

科目体育においては、豊かなスポーツライフの継続を重視し、以前より学習指導要領に「態度」を内容として示している。今回の改訂においても、科目体育の「学びに向かう力、人間性等」の指導事項が、愛好的態度及び健康・安全を共通に、公正（伝統的な行動の仕方）、協力、責任、参画、共生の内容で示された。各領域においては、その特性に応じ、効果的かつ具体的な指導事項が重点的に示されている。「学びに向かう力、人間性等」の評価については、当該単元で指導した内容に即して、確実に評価を行うことが必要である。また、育成を目指す三つの資質・能力に係るすべての学習において「粘り強く取り組むこと」及び「自らの学習を調整しようとする」を通して、運動への愛好的態度が涵養されると捉えられている点も確認しておきたい。

#### ⑤ 積極的な ICT の活用を

各教科等の特質を生かした、教科横断的な視点での情報活用能力の育成が求められている。今後、ICTを「文房具」として自由な発想で活用できる

条件整備も進むだろう。こうした先端技術を、個別最適な学び（指導の個別化や学習の個性化）や協働的な学びの指導（学習）と評価の充実に活用したい。評価についての情報の収集や分析等を効率的にできれば、教員の負担軽減にもつながることだろう。その際、育成すべき資質・能力との関係やICTを活用する目的、利点などを確実に押さえる必要がある。

#### 5. 結びに

「指導と評価の一体化」を重視した学習評価の工夫・改善を通して、自らの学びを改善できる生徒の育成につながるよう、学習評価をツールとして活用する実践が求められている。その探求が教師の指導改善をも加速させ、学び続ける生徒とともに、学び続ける教師の育成にも資することになるだろう。

#### 引用・参考文献

- 1) 文部科学省：「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」〔別紙3〕高等学校及び特別支援学校高等部の指導要録に記載する事項等
- 2) 国立教育政策研究所：「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 高等学校 保健体育」p.68, 2021年
- 3) 文部科学省：「高等学校学習指導要領」2018年
- 4) 文部科学省：「高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編」2018年



# スポーツの門戸を ひらく

## ー陸上界から届ける 豊かなスポーツライフのヒント

合同会社 TWOLAPS 代表  
日本陸上競技連盟 強化委員会企画戦略部ディレクター

### 横田 真人

ロンドン五輪・陸上競技800m 日本代表。現在は、競技面だけでなく競技外での成功もサポートする日本で唯一の中長距離チーム「TWOLAPS TC」の代表として、東京五輪代表の新谷仁美選手、トボ蘭選手なども指導。

取材・構成／大修館書店編集部

#### 1. はじめに

僕は現在、合同会社 TWOLAPS を軸に、「する」「見る」「支える」「知る」の視点で陸上の大会を開催したり、TWOLAPS TRACK CLUB（以下、TWOLAPS TC）というプロ陸上チームでコーチをしたりしています。時には陸上大会のディレクター、時には TWOLAPS TC のコーチというふうに、僕を形容する言葉はいくつかあり、自分でも1つに定めることは難しいのですが、それらの役割は、あくまでスポーツの持っている力を社会に還元していくための手段の1つだと捉えています。スポーツを通じて社会課題を解決していくためにビジネスの視点を取り入れる、その中で大会運営やコーチをしているというイメージです。かつて800m 走の選手だった頃から、「もっとこうしたらスポーツ界がよくなるんじゃないか」「こういう人材が足りないから、自分がそういう人材になりたい」などと、スポーツ界や陸上界を俯瞰していました。そして引退後、最初はコーチという役割に就きましたが、そこから幅を広げ、現役選手の頃に思い描いていたことを少しずつ実現していこうと取り組んでいます。

TWOLAPS TC は、「性別・国籍・所属の垣根を取り払い、日本で一番強く、一番競技の価値を高め、一番ファンを大事にするチーム」を掲げ、中距離界・陸上界・社会を変えていきたいという思いのもと活動しています。特徴的なのは、チームと選手の関係性。一般的な陸上実業団チームでは、チーム（会社）が選手に対し給与を支払いますが、TWOLAPS TC では選手がチームにコーチング料を払いコーチングを受けます。つまり、選手はある意味で「お客様」。そういった点が、コーチと選手が上下関係でなく「一緒にビジョンを体現するパートナー」という対等な関係にある背景だといえます。TWOLAPS TC に所属する条件の1つとして、『「競技力と、競技力以外の価値を追求する」という考えに共感していること』があるので、TWOLAPS が実現したい世界観を、選手は選手の立場で表現し、スタッフはコーチやマネジメントの立場で表現しており、選手も一緒に大会運営などを行っています。

TWOLAPS が目指すのは、「Gamechanger（変革者）」として陸上界を変える・引っ張る存在になること。陸上競技の「競技場の中での魅力」以外にも伝えていくことのできるチームを目指しています。選手にとって TWOLAPS は、金銭的な（給与をもらう）結びつきではないからこそ、ビジョンを共有することが大事。これはどのチーム・組織にも共通することだと考えていて、それを実現できていることが TWOLAPS の強みの1つだと思います。

#### 2. 模索している「スポーツの価値」

これまでの陸上界は、陸上競技の価値やおもしろさについて、上手く言語化できていなかったと思います。僕自身も、今はまだ『「陸上競技のおもしろさ」』『「スポーツの価値」はこういうものです』と自信を持って言うことはできず、関わる人たちと一緒に模索しているところです。とはいえ、中距離の魅力については、長年感じたり考えたりしてきましたから、自信はないけど仮説はあります。だから、大会運営を通して「これはお客様の心に刺さるのか？刺さらないのか？」を検証している段階です。お客様やファンの方が「見て楽しい」「参加して楽しい」と思うことが重要なので、『「楽しい」って何？』『「その『楽しい』を中距離でどう表現する？」』と深掘りして大会をつくっています。

また、そもそもファンの方たちにとっての「価値

あるもの」「喜んでもらえるもの」というのは、僕たちが検証していくものではあっても、押しつけるものではないと思っています。そう考えた結果、「わからないから仮説をもとにやってみる、やりながら考えていく」というスタイルでいます。正解はないからこそ、変わることや失敗することには抵抗がなく、むしろチャレンジしないといけないと考えています。100点だと思ったらそこで終わりなので、「100点を求めるけど100点はない」という矛盾した考え方を持って取り組んでいます。

2021年に初めて開催した MIDDLE DISTANCE CHALLENGE（以下、MDC：詳しくは後述）東京大会の来場者は1,000人ほどでした。「この数字を多いとみるのか少ないとみるのか」と「その理由」については、今後の取り組みの中でよく考えていく必要があると思っています。ただ、正解を持たないほうが楽しいし、さらに成長できると思っていますので、前向きな検証作業にしていきたいですね。

### 3. TWOLAPS 発 全員主役の陸上大会

2021年に、MDC という小学生から社会人（オリンピック選手も含む）までが出場できる陸上大会を開催しました。8月の大阪大会、9月の福島大会、そして10月の東京大会と続くサーキットレースは、多くのボランティアの方と一緒に作り上げた大会でもありました。

大会をつくるにあたっては、トップランナーだけでなく、参加する人全員が主役になれるということが一番大事にしていました。その上で、「誰のために開催するのか」「お客さんは誰なのか」を明確にするということを問題提起しました。MDC の「お客さん」は、大きく2種類。まずは、お金を出して走りに来てくれたランナー。彼らランナーにとって、

この大会で走ることの「何が楽しく、何に満足するのか」という部分を追究する必要がありました。さらに、レース前後に寄るブースやボランティアとの会話なども含めて満足してもらいたいと考えた結果、受付などランナーと接する役割は特に重要視しました（図1）。また、もう1人の「お客さん」は、お金を出して見に来てくれた観客の方々。その人たちに陸上競技のおもしろさを伝え、かつ「レースとレースの間の退屈な時間をどう埋めるか」という陸上競技特有の課題に対しても、観客の視点に立ち、自分たちの今の考えや予算の中でできる工夫を凝らしました（図2）。そして、「お客さん」を楽しませるために何より大切なのは、ボランティアの皆さん自身が楽しむこと。当たり前かもしれませんが、ボランティアの皆さんが笑顔であればお客さんも笑顔になる可能性が高いし、怒っていたらお客さんは嫌な思いをする。だから、みんなが主役で、みんなが自分の考えを活かして動きやすい雰囲気・組織にすることを意識しました。

大会に関わってくれる方たちは、TWOLAPS のことを「TWOLAPS ってなんかおもしろい」「新しいことをしていて一緒にスポーツ界を変えていけそう」というポジティブな視点で見てくれている人たち。「empowerment through sports（スポーツを通じて人々をエンパワーメントする）」という、僕たちが体現する TWOLAPS の考え方やビジョンに1つでも共感してくれる人たちが集まってくることが強みです。今後の流れとして、みんなでつくる小さな手づくりの大会が増えてくると思うので、MDC は目標とされる1つのかたちになるのではないかと考えています。そういった意味で、MDC は陸上界にとっても歴史的な一歩だといえる。TWOLAPS や MDC に関わってくださる方たちは、

図1 大会当日の受付の様子



図2 バズーカ砲を用いての選手からのプレゼント企画



その点にも価値を見出してくれているかと思います。

#### 4. スポーツの「入口」を広げ、「結界」を壊す

陸上競技は、現状「する人」と「見る人」が分断されているスポーツではないかと思っています。具体的には、「ランニングはするけど世界陸上は見ない」人がたくさんいるのではないかということ。たとえば、「サッカーをするけど日本代表の試合を見ない」という人はあまりいないように思うんですよね。だから、陸上競技における分断を考える一環として、MDCでは、出場したランナーがそのまま観戦者になるという流れにしたいと思っていました。

今でこそ「する」「見る」「支える」「知る」の楽しさはそれぞれあると思っていますが、僕は長年「する」ことを生業にしてきたので、「見る」ことにあまり興味がありませんでした。大会を魅力的にしていかなきゃとお客さんに見てもらえないということも実感していましたが、自分だけの力で変えるのは難しいとも感じていたのです。ただ、選手の将来を考えたときに、競技が盛り上がり注目を浴びることは回り回ってその競技をしている自分たちに返ってくるし、絶対に必要だとも考えていました。だから、MDCで「する」人以外の視点を入れることが大事だと考えたときに、「スポーツってこんなに多くの関わり方があるんだ」と気づいたんです。

学生時代の「体育」では、「する」ことをメインに教わってきたと振り返りますが、それでは、「スポーツは得意な人がするもの」になってしまいますし、僕自身そういうものだと思っていました。今は、スポーツへの入口は何でもいいと思っていて、僕たちが本当にやりたいと思っている大会のかたちをつくるためにも「見る」「支える」楽しさを徹底的に掘り下げています。というのも、「見る」「支える」がきっかけで「する」に入っていく人もけっこういるんです。だから、入口は「する」でなくてもよくて、とりあえずまずスポーツに関わるのが大事。関わることで得られるものはたくさんあるし、関わり方も色々あるので、「入口は何でもいい」という考え方をもっと広げていきたいと考えています。実際、スポーツによって「人が1つになる」ことの意義は大きいと感じています。その一体感が、今までは「速い」「強い」などの「特別な人」のものになっていましたが、そうでない人たちもスポーツに携わって一緒につくっていく、そんな社会にしたいと考えています。「スポーツができないとスポー

ツに関わってはいけない」というような風潮を変えていきたいのです。スポーツは本来、誰でも携われ、一体感をつくることができるものなので。

昔は今よりも身体を動かすことのできる場所が多かったということを考えると、学校の校庭開放などのように、開かれた場がもっと提供されると、スポーツにアクセスしやすくなる気がしています。陸上競技に限りませんが、「本気の人しか来てはいけない」「トラック（陸上競技場）は特別な人のもの」というような無意識の「結界」があると感じています。それを変えていきたい。

現役時代にアメリカで印象的だったのは、スポーツ施設が地域の人に開放されていたこと。大学の施設も、学生が練習しているときに入る人はいませんでしたが、それ以外の時間には犬の散歩をしている人がいることもありました。僕もはじめは「入ったらだめだよ」と声をかけそうでしたが、よく考えたら「でも、何がダメなんだろう？」という気がして。速い人が偉いわけではないのに、なんとなく長年自分の中に染みこんでいた考えに気づかされました。

日本ではすぐに「危険だから」と規制するようなルールができたり、門を閉めたりしますが、「施設は誰のものなの？」という問いは、「スポーツは誰のものなの？」という問いに通じるところがあるのではないのでしょうか。さらに、社会が大きく変化する中でスポーツ界も色々な物事を受け入れていく必要があるのに、少なくとも陸上界には今でも排他的な部分が残っている。そのことに違和感を持っています。それでも、陸上競技って、靴さえあれば誰でもアクセスできるスポーツなので、変われるし変えられると思っています。

#### 5. スポーツをすることのメリットを再考する

アクセスしやすくなることと、実際にアクセスすることは別問題でもあります。「すると健康になる」ことがスポーツの魅力といわれても、ピンと来ませんよね。人はそこまで合理的でなく、どちらかというと情緒的だと思います。それに本当に合理的な人なら「運動をするのは健康によい」とわかれば、あれこれ言わずに運動をしているでしょうし、健康に気を遣っている人ならすでに運動しているでしょう。でも多くの人はずうはいかないので、「楽しい」「充実感」「達成感」などのポジティブな情緒的感情が先にくるほうがいいのではないかと感じています。論理的に説明するより感情に訴えかけるほうがいい



のではないかと。『楽しい』などの情緒的な理由があるから運動をする、その結果健康になる」くらいの位置づけがよいのではないかと思います。「健康になる」ことが目的だと、健康になるために「頑張って」スポーツをする必要が出てきます。でも、頑張ったら続かないですよ。

特に陸上競技は「最初にゴールしたから一番」「最も遠くに飛ばしたから一番」という勝ち負けのはっきりしたシンプルなスポーツなので、まさに、感情に訴えかけるスポーツのはず。だから、情緒的な部分をどう上手く引き出すかが重要だと考えています。情緒的というのは、具体的には、スポーツをしたら「友達と打ち解けられる」「興奮する」「涙が出る」「共感する」「応援したくなる」など。スポーツのそういう情緒的な面をもっと打ち出していくことが大事だと思っています。

## 6. スポーツがもたらす「情緒」が人生を豊かに

生涯にわたってスポーツに関わることで、生活に広がりや奥行きができ、人生が豊かになると思います。その理由は、先にも述べましたが、スポーツに携わると色々な情緒が出てくるから。応援していた人が勝って「嬉しい」、仲間ができて「嬉しい」、プレーして「楽しい」、負けて「悔しい」など様々な感情に出会える。それが、充実した生活を送るために重要だと思います。もちろんスポーツ以外からでも感じ取ることではできるとは思いますが、スポーツはより感情を得やすいものだと思います。

大人になって、お金の関わらないつながりで友達・知り合いが増えていくことは、あまりないと思います。でも、スポーツを軸にすると、「スポーツが好き」「大会運営に携わっている」以外には共通点がないような人たちが集まってくるわけです。色々な人に出会うことで、「そういう仕事をしているんだ」「そういう人もいるんだ」と新たな発見ができるのもおもしろい。僕自身、趣味はないのですが、好きなことに打ち込める時間、仕事から離れられる時間があると幸せだと思っています。

## 7. 体育の授業で全員がヒーローになる

体育の授業でも、「する」だけを評価軸にしないことは大事かと思っています。たとえば、ユニークで独創的な応援をする、野球やソフトボールのスコアブックをつける、50m 走の計測係やスターターの役割を極める。このような様々な関わり方を「す

る」と同じように評価することには大きな意味があるのではないのでしょうか。「こういう関わり方もスポーツなんだ」とわかれば、スポーツが少し好きになったり、見る視点が変わってきたりするかもしれません。「する」以外でも認められるとわかれば、自分ができることや得意な役割を見つけたり探したりするなど自主性・積極性も出てくるかもしれません。さらには、たとえば授業で審判のおもしろさを実感して、「将来は審判になりたい」という生徒が出てくるかもしれません。陸上競技の場合、審判は、陸上競技経験者が資格を取得して担うことが多いですが、「授業でタイム計測のおもしろさに気づき、タイム計測について調べてみたら写真判定を行う機材があることを知って、それに憧れて審判になりました」という人が出てきたら嬉しいですね。もちろん出ないかもしれないですけどね。また、球技では、戦術を考える係がいてもいいと思います。「する」のは得意ではないけど、考えるのが得意な生徒には適任ではないでしょうか。他にも、倒立ができるようになるための練習のしかたを生徒が調べたり考えたりしてきて、先生役になって他の生徒を指導する日があってもよいかもしれません。その結果みんなができるようになったら指導した生徒のおかげですし、上手いかななくても、その取り組みや過程がちゃんと評価されるとよいと思います。

スポーツはそもそも遊びなので、「得意なこと」から取り組んでみてもいいのかなど。そういう入口から興味を持って、したくなるパターンもあるでしょうし、「する」以外も含めた「楽しむ」という視点や評価が教育の現場にあると大きいと思います。トップアスリートも、成功体験の積み重ねによってスポーツに対してポジティブな考え方ができているだけなので、「する」以外で評価された成功体験があれば、子どもたちのスポーツの見方・関わり方の幅は増えていくと思いますし、「ちょっとやってみようかな」というきっかけになる気がします。スポーツを「する」のが得意な子どもだけがヒーローになるのではなく、他の子どもも活躍する場ができたり、「あの子の考える応援歌がおもしろい」「あの子にチャントをつくってもらいたい」などと周りからの評価も変わってきたりすると、全員がヒーローになることができるかと思っています。そして、そのうちに、「私こういう役割をやってみたいです」という意見が絶対に出てくると思うんですよ。このように考えていくと、関わり方のハードルがどんどん

下がっていく気がします。もちろん、授業としてできること・できないこと、すべきこと・すべきでないことがあるとは思いますが、その上で実現できたら、スポーツへの関わりやすさが格段に上がると思います。写真を撮る人、デザイン性の高い星取り表をつくる人、プログラミングを使って動くトーナメント表をつくる人、はちまきやユニフォームをつくる人、体操着をチームごとにおしゃれにデザインする人、チームが一体になるようお守りをつくる人。それぞれの役割でチームに関わることができれば、自分のチームが活躍してほしいという気持ちになり、「もっとこうしたい」が出てきますよね。勝ち負けに直結する要素かどうかはさておき、「チームを良くしたい」という思いが出てくる。年間を通して同じチームで戦い抜くというのもおもしろいですね。

毎日の授業に、する人、つくる人、応援する人、見る人がいて体育祭のように盛り上がる。そんな風景を見てみたいです。

## 8. おわりに ー スポーツの価値を信じて

これから、「組織としてビジョンをつくり、コミュニケーションをとり、選手やスタッフが一緒になってかたちにする」という自分たちがやってきたことを、他のチームや関係者とシェアしながら、陸上界・スポーツ界・社会がより良くなるために活動していきたいと考えています。僕自身が、日本陸上競技連盟の役職に就いたので、それも併せて追究していきたいですね。

TWOLAPSとしては、大会づくりについては始まったばかりで、まだ成功したとは思っていませんが、「陸上中長距離の種目だけでこんなお客さんが入るんだよ」ということを示すことができるように取り組んでいきたいです。陸上界をよくするためには、大会を育てていくことに加え、チーム（競技者）として結果を出していくということも、地域に根ざした活動や子ども向けの教室（2021年から東京都世田谷区の小学校で陸上教室を、2022年から「TWOLAPS KIDS」（図3）を実施）を通してファンづくりをしていくということも大事にしていきたい。それらの相乗効果で、中長距離界を盛り上げ、世田谷に根ざし、そこから広げていく。スポーツと地域は切っても切り離せないですから。

大会運営に携わってくださるボランティアの方たちは本当に楽しそうなんです。そして、ボランティアの方から「このような機会をくださってありがと

図3 身体を動かすことを楽しむ子どもたち



う」と逆に感謝の言葉をいただくこともあります。ボランティアの中でも様々な関わり方があり、走るだけの人もいて、見る専門の方もいる。特別足が速くなくても、フルマラソンを走っていないくても、地域のスポーツを支えることはできるし、実際に楽しんで支えてくださる人たちがすでにいます。現在、地域のチームなどで、人手やお金が足りないところも多々あると思いますが、ボランティアの方が自分の得意な分野で支えることができれば非常に大きな助けとなります。MDCのボランティアでも「この人はこれが得意でこれは苦手」というのがお互いにあります。基本的には得意な部分をお願いするので、自分の楽しみ方・関わり方を見つけてもらえると、新しい発見に出会えると思います。

今は、一歩踏み出しさえすれば色々なことにチャレンジしやすい時代だと思います。とはいえ、そのような機会があると知らないかぎり動けない面もある。その機会や選択肢を子どもたちに提供するのには大人の役割だと思います。子どもが「する」「見る」「支える」の自分の興味のあるところに一歩踏み出してみることができるよう、情報や機会を与えてあげることが大切なので、僕たちの活動も、少なからず情報提供の一助となれば嬉しいと思っています。「走る」ということでいえば、まずは大会を目指して走ってみる、ボランティアに応募してみる、観戦しに行ってみるなど。ここまででも述べてきたように、色々な選択肢があります。

とはいえ、どんなことでも、大人ができるのは選択肢を与えるところまで。踏み出すか踏み出さないのかは本人次第なので、子どもたちには、どんなことでも、最後は自分で踏み出してもらいたいと思っています。その先に、豊かなスポーツライフがあれば何より嬉しいです。

冬に行われた  
全国高等学校  
総合体育大会団体  
(令和3年度)の入賞校  
(1位~3位)



### 駅伝

#### 【男子】

- 1位 世羅(広島)
- 2位 洛南(京都)
- 3位 仙台育英(宮城)

#### 【女子】

- 1位 仙台育英(宮城)
- 2位 大阪薫英女(大阪)
- 3位 神村学園(鹿児島)

### ラグビー

- 1位 東海大大阪仰星(大阪)
- 2位 国学院栃木(栃木)
- 3位 桐蔭学園(神奈川) 東福岡(福岡)

### スキー

#### 【男子】

- 1位 東海大札幌(北海道)
- 2位 飯山(長野)
- 3位 花輪(秋田)

#### 【女子】

- 1位 秋田北鷹(秋田)
- 2位 長野俊英(長野)
- 3位 花輪(秋田)

### スピードスケート

#### 【男子】

- 1位 小梅(長野)
- 2位 白樺学園(北海道)
- 3位 帯広三条(北海道)

#### 【女子】

- 1位 白樺学園(北海道)
- 2位 岡谷南(長野)
- 3位 帯広南商業(北海道)

### アイスホッケー

#### 【男子】

- 1位 駒大苫小牧(北海道)
- 2位 武修館(北海道)
- 3位 北海道清水(北海道) 埼玉栄(埼玉)

### フィギュアスケート

#### 【男子】

- 1位 目黒日大(東京)
- 2位 駒場学園(東京)
- 3位 浪速(大阪)

#### 【女子】

- 1位 駒場学園(東京)
- 2位 京都光華(京都)
- 3位 東北(宮城)

通巻314号

## 保健体育教室 2022年 第1号

2022年4月1日発行

編集人 — ©大修館書店「保健体育教室」編集部

発行人 — 鈴木一行

発行所 — 株式会社 大修館書店

〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1

電話 03-3868-2297(編集部)

03-3868-2651(販売部)

振替 00190-7-40504

印刷・製本 — 広研印刷株式会社

図本誌のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼して、スキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内での利用であっても著作権法上認められておりません。